

被災史料の救出活動

松下正和(神戸大学大学院人文学研究科特命講師/歴史資料ネットワーク副代表)

■はじめに

○今日の概要

- ・私の活動
- ・災害時と日常時の史料保全 何を救うのか?なぜ救うのか?誰が救うのか?
- ・皆さんに期待すること 地域の歴史遺産の発見・保全・活用

○ボランティア団体「歴史資料ネットワーク(略称史料ネット)」の成立

- ・1995.2 阪神大震災を契機として被災史料レスキュー活動開始
 - ・1996.4 歴史資料ネットワークと改称 →2002.5 会員制に
- URL: <http://www.lit.kobe-u.ac.jp/~macchan/> e-mail: s-net@lit.kobe-u.ac.jp
〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1 神戸大学文学部内 電話:078-803-5565
ブログ: http://blogs.yahoo.co.jp/siryo_net/
※研究者・文化財担当職員・地域住民の参加 レスキュー対象としての未指定文化財

○史料ネットによる過去の災害対応

- ・地震対応:95年阪神・淡路大震災、99年台湾大震災、00年鳥取県西部地震、01年芸予地震、03年宮城県北部連続地震、04年新潟県中越地震、07年能登半島地震
- ・水害対応:04年新潟・福井水害、04年台風23号(兵庫・京都)、05年台風14号(宮崎)

- ※神戸の経験を各地に伝える活動 →各被災地での「史(資)料ネット」設立の支援
(例)山陰ネット、愛媛ネット、宮城ネット、福井ネット、宮崎ネット、能登ネット…
- ※04年以降、新たに風水害へも対応 →地震による被災資料とは異なる課題

■被災地の行政・住民と協力して行った水損史料の保全活動～04年台風23号を例に

○事前準備

- ・被災地の行政・マスコミ・ボラセンなどに、水損史料保全活動への協力を要請
- ・被災状況の確認作業
- ・史料所蔵者情報の把握と史料目録の作成
- ・地図に浸水域や所蔵者情報を書き込み、訪問時の基礎資料とする
- ・被災市町への連絡・趣旨説明のために訪問(行政・大学・住民との事前の打合せ)

○被災地の巡回調査 ※必ず地元の了解を得てから、地元の方々と共に行動

- ・浸水域に所在する史料所蔵者宅を訪問して史料の有無・安否確認
- ・史料レスキューの趣旨説明をしながら、チラシを配付
- ・調査員の作業…史料情報の聞き取り役、調査票への記入役、撮影役(1班3,4人程度)

○レスキュー活動 水損・汚損史料への対応

- ・被害の程度が軽微な場合 応急処置の指導
- ・程度がひどく、処置に困っている場合はレスキュー
…殺菌のため史料にエタノール噴霧後、ビニール袋詰め・段ボールに収納し、クール宅急便で史料ネット事務局に搬送(被災現場で処置可能な場合は、搬送せず)

(例)民間所蔵資料のレスキュー・修復事例

- ・兵庫県日高町森垣家、田尻家の近世～近代史料段ボール約20箱が水損
- ・兵庫県出石町日野辺地区…公民館で保管の区有・自治会文書段ボール約20箱が水損
- ・京都府舞鶴市三日市地区…区長宅で保管の区有・自治会文書が水損
- ・京都府京丹后市稲葉家…蔵で保管の襖約50枚が水損

○水損史料の乾燥作業 →河野未央先生の講義



▲西宮市北口町東家レスキュー
(1995年5月23日撮影)



▲矢本町の被害の様子
(2003年8月1日撮影)



▲京丹后市での事前打合せ
(2005年1月6日撮影)



▲日高町T家汚損史料
(2004年11月7日撮影)



▲エタノールを噴霧後、
史料1点ごとにビニール袋詰め
(2004年11月1日撮影)

○所蔵者への返却

- ・生活が落ち着いた段階を見計らって返却
…(例)日高町森垣家、出石町日野辺地区、舞鶴市三日市地区
- ・所蔵者による保管が困難場合は寄贈・寄託先を斡旋…(例)日高町田尻家

○保全史料を活用した取組

- ・市民ボランティアや被災地の住民とともに保全史料を乾燥、仮整理
…日高町田尻家文書を学生・市民ボランティアとともに乾燥
…舞鶴市三日市では、区有・自治会文書を被災地の地域史研究団体「舞鶴地方史研究会」メンバーとともに乾燥
- ・保全史料の現地説明会を開催 (例)出石町日野辺公民館にて自治会文書説明会
…史料を活用した新たな地域像を住民に提示、調査成果を住民に還元
→歴史資料の保存に対する、地元住民の理解を得ることに
→復興時における地域の歴史遺産を活かしたまちづくりへ



▲レスキュー史料の返却式
(於日野辺公民館)



▲保全史料の説明会
(於日野辺公民館)

○住民の声 家の歴史・集落の歴史の保全が、復興時の心の支えに

「台風直後は家の中もめちゃくちゃで古文書どころではなかったが、傷んだ史料を修復するのも大変な作業と思う。歴史研究に役立てばうれしい」

(日高町田尻一雄さん、2004年11月28日付け産経新聞)

「おかげさまで文書はよみがえりそうだ。今後も集落の歴史を目に見える形で伝えたい」(舞鶴市三日市佐藤さん、2005年2月18日付け朝日新聞)、「区に代々伝わってきた文書を水につけてしまい申し訳ない気持ちだった。修復してもらえ本当にありがたい」(同上、2005年2月18日付け京都新聞)

※水害独自の被災形態…史料の水損、汚損。カビ、腐敗臭の発生

(→風水害以外でも日常的に起こりうる被害)

※地震による被災史料よりも一層早く処分される水損史料

(←水損史料のレスキュー・乾燥・修復処置方法を周知する必要)

※救出活動は、史料ネットだけでは不可能。被災地の行政・住民の協力が不可欠

→災害時に活動できる体制を、いかに日頃から作るかにかかっている



▲地元住民とともに行った乾燥作業(於舞鶴市三日市)

■日常からの史料保全体制づくり ネットワークとフットワーク

○地元でのネットワーク作り 単純だがお互い顔見知りであることが重要。郡部の場合、隣県も含めた協力体制が必要に

- ・住民組織とのつながり…地域史研究団体／古文書を読む会／歴史サークル／ボランティア組織への協力要請
- ・行政の文化財担当職員同士とのつながり(教委・自治体史編纂室・史資料館・文書館・図書館・博物館など)
- ・地元大学とのつながり
- ・文化財保存修復機関との連携 保存科学系の大学研究室・博物館・美術館との連絡／埋蔵文化財処理施設との連携

○フットワークの重要性 史料所蔵者への日常的なケア

- ・特に自治体史編纂の際に悉皆調査を(→被災史料調査時の調査台帳となる)
- ・過去の調査データ・史料目録は可能な限り更新
- ・所蔵者の史料管理状況確認
…日常の保管法(虫干し／防虫／防湿／防水)と被災時の処置法(水損汚損しても廃棄せず、自然乾燥、ペーパータオルによる吸水乾燥を試みるよう呼びかけ。自力での乾燥が無理な場合は専門家に連絡するよう依頼)

※直接的な災害による消滅とともに、

所蔵者代替時・蔵建替時・合併時・水損・汚損時などの際の二次的廃棄や売却に注意！

※水損時の乾燥法の周知と普及 今回の水損史料修復ワークショップ

■おわりに セミナー参加者のみなさんへ

